4 サービス関連

4 サービス

提言 4-1　証明書発行手続きの簡略化

学生の意見

- 博士後期課程進学後も、修士までの成績証明書を自動発行機で発行できるようにしていただきたい。（同様意見 2 件）
- 在学証明書や成績証明書のオンライン発行サービスがほしい。（1 件）

現状分析

証明書自動発行機で発行できるのは次の通りです[1]。

- 在学証明書(和文及び英文)
- 学業成績証明書(和文及び英文)
- 卒業見込・修了見込証明書(最終学年時のみ発行可能)
- 卒業・成績証明書(本学の学部卒業生で引き続き大学院に進学した者)
- 健康診断証明書
- 学生学校生徒旅客運賃割引証(通称「学割」)
- 通学定期券購入証明書
- 学業成績書(学部・本人確認用)

このうち、成績証明書と卒業証明書について、本学の学士課程の卒業生で修士課程に在籍している学生は学士課程の時のものが発行できますが、博士後期課程に在学中の場合、本学の修士課程を卒業していてもその成績証明書と修了証明書の発行はできず、教務課で別途申請する必要があります。

成績証明書・修了証明書は就職活動、留学、奨学金の申請等で必要なものであるため、今回博士後期課程の学生でも簡単に申請ができるようになれば、より各諸手続きがスムーズになると考えます。また、博士後期課程学生における就職活動は、進学理由の 2 番目に割合として多く(図 4-1.1)、また留学希望も他の課程と比べて割合が多い(図 4-1.2)ことから、需要もあると推察されます。

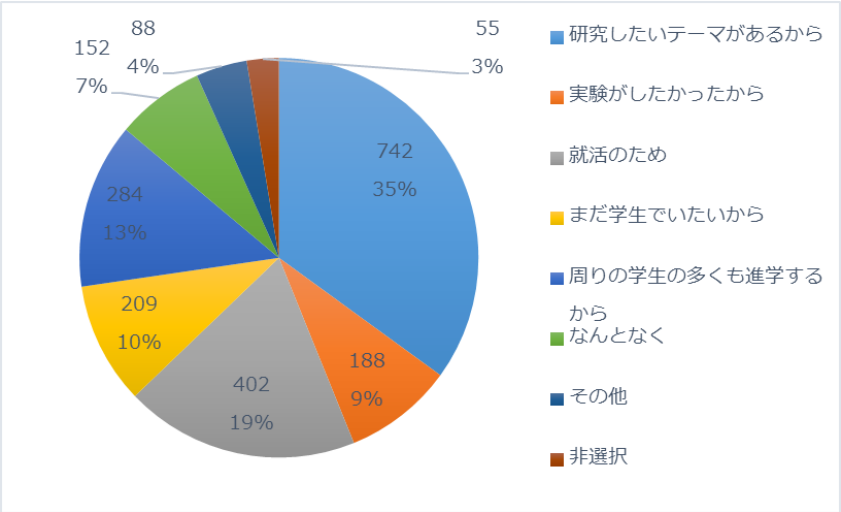

図 4-1.1 博士後期課程に進学した、または進学希望である理由

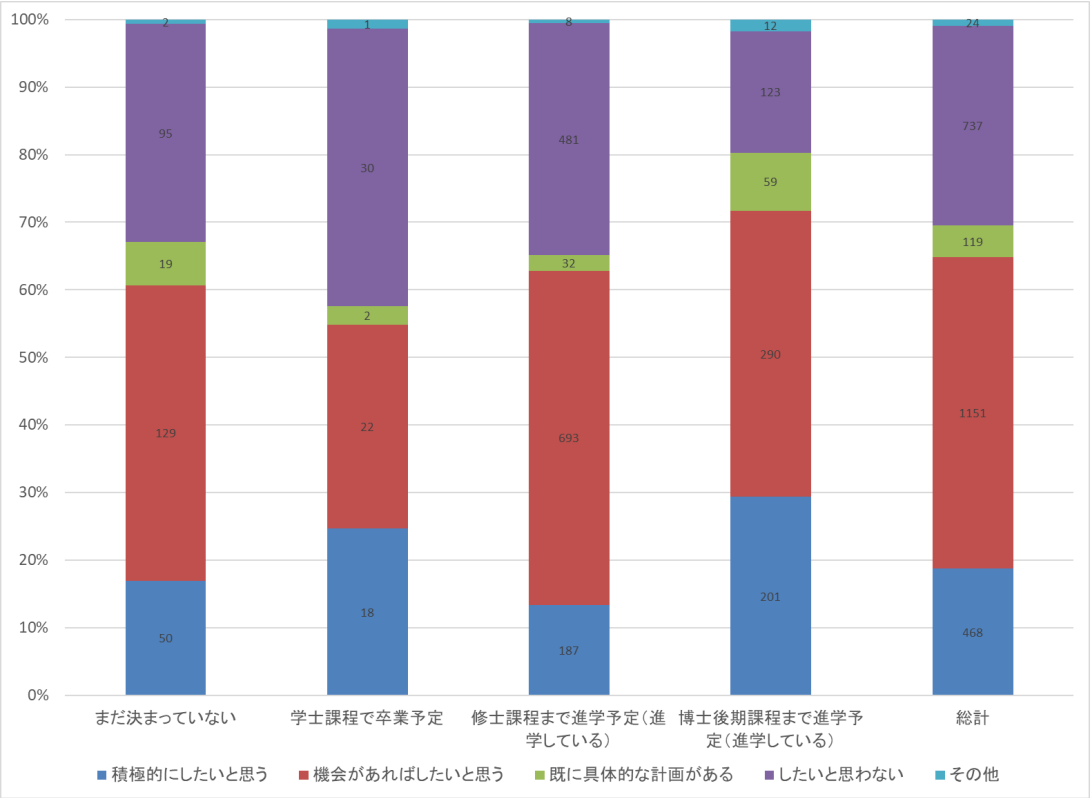

図 4-1.2 課程別の留学をしてみたい人の割合

これらの現状を踏まえ、教務課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. 博士後期課程に所属する学生のみ前課程の成績証明書・修了証明書の発行を教務課で申請する必要があるのはなぜでしょうか。

A1. 博士後期課程と修士課程の成績証明書に関しては、修了論文の題目を入れる必要があります。論文題目の中にはテキストデータで表示できないものもあるため、学位申請書の論文題目は画像として一括で切り取ったデータを使用しています。画像データを証明書に反映させるのは、現状システム上の問題のために証明書発行機で発行することができません。

Q2. オンラインで成績証明書や修了証明書を PDF で発行するようなことはシステム的に可能でしょうか、また検討しているのでしょうか？

A2. 今は対応できていないです。発行機も数年前のものなので、最新の発行機では対応できるかもしれないです。しかし、PDF で発行する需要があるのか分からないです。偽造防止用紙を使用しているため、PDF にすると偽造の恐れもあります。

Q3. 海外の大学院への応募等は PDF でスキャンして提出する場合があるが、そのような場合でも紙で発行するのでしょうか。

A3. PDF が良いという場合は個別に対応しているところもあります。

提言

証明書自動発行機で、博士後期課程に在学中の本学の学生が修士課程の成績証明書および修了証明書を発行できるように提言します。現状の証明書自動発行機は、博士後期課程の成績証明書・修了証明書に対応していないため、発行機の刷新を提言します。また、現在 PDF への対応は個別でできていることから、今後海外の大学院への出願件数の増加といった需要が増えた場合にオンライン化を検討することを提言します。

提言 4-2 学生勤務報告書のペーパーレス化

学生の意見

- 書類申請のオンライン化（同様意見 18 件）
  - RA・TA などの勤務報告書の提出のオンライン化（6 件）
  - 入学手続きのオンライン化（5 件）
  - その他、授業料免除や各種支援制度の手続きのオンライン化

現状分析

現在、東工大では学生が RA（リサーチアシスタント）または、TA（ティーチングアシスタント）などの学生アシスタントとして業務に従事した場合、Excel ファイルで勤務報告書（図 4-2.1）を作成し、予算を担当（管理）している教員の所属する事務グループへ毎月印刷したものを提出することになっています。緊急事態宣言下では、メールや Slack で学生勤務報告書を提出することができましたが、宣言解除された現在、部署によって対応が分かれています。私たち学勢調査の学生スタッフは、謝金を頂きながら提言作成にかかわっています。そのため、勤務報告書を提出していますが、窓口での提出のほかメールや Slack での提出が可能です。一方で、研究室で TA や RA として勤務し、所属している学院の事務室に勤務報告書を提出する際には、印刷した勤務報告書を提出することになっており、メールや Slack での提出は認められておりません。また、業務ごとに確認者となる教員のサインをもらう必要があり、学生の負担になっていると考えます。

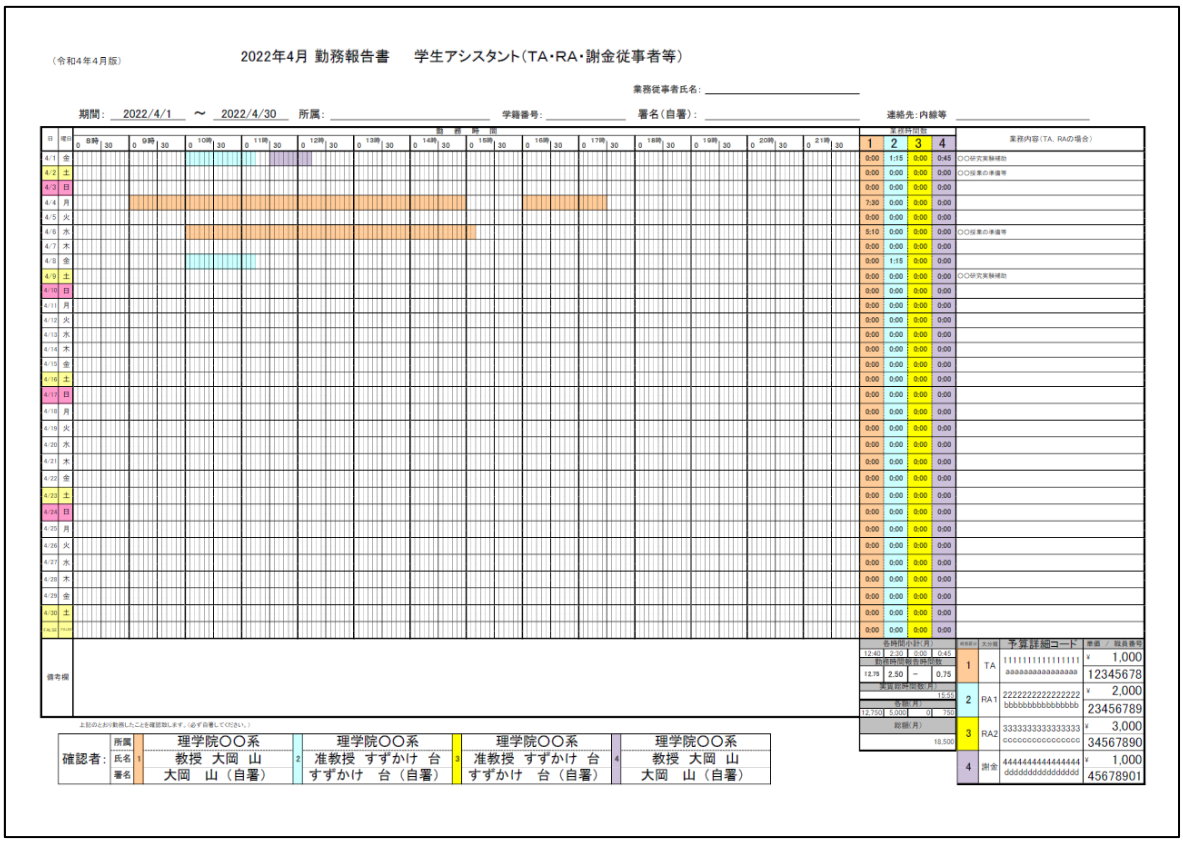

図 4-2.1 学生アシスタント勤務報告書

学勢調査では以前からペーパーレス化・書類手続きの簡素化を求める学生の意見が寄せられており、大学に対して、提言を行ってきました。2018 年度に実施した学勢調査 2018 でも、今回の学勢調査 2022 と同様、ペーパーレス化を希望する学生の意見が寄せられておりましたので、それに対する提言をいたしました（提言 4-1「ペーパーレス化の推進」）。その際に、人事課とのキャンパスミーティングで以下のやりとりがありました。

Q1. 勤務報告書の手続きを Web 上で完結することに対して問題点は考えられますか。

4 サービス関連

A1. 2019 年 4 月からの働き方改革を受けて教職員の勤務状況をしっかり把握しなければならなくなったこともあり，勤務報告の手続きを Web 上で行う手続きの検討を始めています。現在，他大学を視察し，他大学の動向も踏まえ検討している最中です。しかしながら，まずは教職員の方を先に導入することを考えていますので学生の方の導入は遅れることが予想されます。

また、2020 年度に実施した学勢調査 2020 では、留学に必要な 6 つの書類のペーパーレス化を提言し（提言 4-14「留学手続きのペーパーレス化」）、2022 年 4 月から東工大電子申請システム（T2APPs）から一部の書類の提出ができるようになりました。このように東工大においてもペーパーレス化が進んでいることから、学生勤務報告書についてもオンラインでの提出が可能であると考えます。

これらの現状を踏まえて、人事課労務室に質問をいたしました。また、留学生交流課とはキャンパスミーティングを実施しました。それぞれ、以下のような回答をいただきました。

Q1. 学勢調査 2018 から 3、4 年ほどたった現在、教職員の勤務報告書のペーパーレス化や Web 上で行えるシステムの導入などはどれほど進んでいますか。

A1. （人事課労務室）システム開発を経て、常勤事務職員については 2022 年 1 月から勤怠管理システムによる勤務管理を開始し、2023 年 1 月から非常勤職員（※）にも利用範囲を拡大しました。これにより Web 上での出退勤の打刻や、勤務等記録簿、休暇簿等の各種書類のペーパーレス化が進みました。

また、大学統合が発表されましたが、新大学における職種や勤務形態など、勤務にかかわる制度の検討を行う必要があるため、現在の勤怠管理システムの利用範囲の拡大は現時点で停止しております。

※事務局所属の非常勤職員（特任専門員は除く）

Q2. Web 上で行えるシステムを TA・RA 学生が使用できるまでのスケジュールや計画があれば、教えていただけますでしょうか。

A2. （人事課労務室）大学統合のこともあるため、現時点では見通しは立っていない状況です。

Q3. 事務処理支援サービスを使用した教職員および学生の反応はどうですか（作業の手間が省けた。以前の申請方法との比較など）。

A3. （留学生交流課）既存の決済サービスを活用しているため、使いづらい部分は存在しています。学生からの反応としては、使い方が分からないといった意見をいただきます。負担が増えたという意見はなく、使いやすくなったといったポジティブな意見もありません。教員からの反応としては、長く東工大にいる方から手続きが煩雑で難しいという意見をいただきます。事務としては、書類が減り、申請状況の把握などもできており助かっています。

提言

以上を踏まえて、学生勤務報告書のペーパーレス化について以下のように提言します。

- 学生勤務報告書のオンライン手続きのシステム導入を提言いたします。
  - しかし、人事課労務室からの回答にもありましたように、大学統合による勤務制度の検討が必要なため、オンラインでの学生の勤務管理は難しいと考えます。そこで、大学統合までの期間は、暫定的に全学で現行の勤務報告書をメールや Slack での提出が可能にしていただきたいです。
  - 大学統合後にオンラインでの勤怠管理システムを学生へとすみやかに拡大をお願いします。

提言 4-3 学生向け Adobe アカウントの導入に向けた支援

学生の意見

- Adobe アカウントの無償配布、または安価での提供。(類似意見 55 件)

現状分析

Adobe(アドビ)社[1]が提供しているサービスの中に、Adobe Creative Cloud コンプリートプラン(以下、Adobe CC)という Adobe 社のアプリをすべて使用することができるプランがあります。時期により 1 年目の割引率の変動がありますが、学割を適用して Adobe CC を購入する場合、1 年目は 1738～1980 円/月(20856～23760 円/年)、2 年目以降は 3278 円/月(39336 円/年)と、学生にとっては少し高価なものになっています[2]。Adobe CC を全学導入(包括契約)している国公立大学は 20 大学[3]であり、その中に東工大も含まれています。そのため、東工大の学生は、研究室または学内にある大学所有 PC で Adobe CC の共有デバイスライセンスを利用して、Adobe 社のソフトを無償で使うことが可能です。

しかし、コロナ禍で大学に行く機会が減ってしまい、研究室にある大学所有 PC や学内にある教育用電子計算機を使用することが難しくなってしまった他、教育用電子計算機にインストールしている Adobe Font 内のフォントや、Adobe CC 内のアプリが少ないなど、Adobe CC の機能に大きな制限があります。また、講義やサークルで使用する際に満足にアプリを使えないといった声が、今回の学勢調査で寄せられました。

他大学の例

Adobe CC に関して他大学の状況を共有いたします。多くの大学では Adobe CC を全学導入してなかったり、東工大と同じく大学所有 PC のみの利用に限られていたりします。しかし、一部の大学では、通常の学割よりも高い割引率で Adobe CC を提供できており、東工大においても実現可能性があると考えます。

- 東京工芸大学[4]
  - 芸術学部生、大学院芸術学研究科生及び専任教員のみ個人所有の PC での利用が可能
- 横浜国立大学[5]
  - 東工大と同じく、大学が保有・管理する PC(※私物 PC は対象外)
- 北海道大学[6][7]
  - 東工大と同じく、大学が保有・管理する PC(※私物 PC は対象外)
  - ただ、北海道大学の生協では、Adobe CC を北大生限定で販売しており、「Adobe Creative Cloud 包括ライセンス A 1 年間」では税込み 8000 円で提供されている
- 学生用ライセンスパック https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html
  - コンプリートプラン 15,576 円(年額税込、最低発注本数:30 本～)が Adobe 社から提供されている。
  - 脚注には「発注本数に応じて価格割引」とあるため、確認はしていていないが北大はこの価格割引の一例かもしれない。

---

[1] Illustorator や Photoshop などのクリエイティブツールや、Adobe Acrobat に代表される文書のデジタル化を促進するツールを提供している米国企業

[2] Adobe 社 Creative Cloud 学生・教職員個人向け (最終閲覧 2023/3/26):
https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/students.html

[3] Adobe 社 Creative Cloud 教育機関向け | 大学・高等教育機関 (最終閲覧 2023/3/26):
https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html

[4] 東京工芸大学 情報処理教育研究センター【学生・専任教員個人用】Adobe 製品 インストール手順 (最終閲覧 2023/3/26):https://www.cc.t-kougei.ac.jp/manuals/adobe-home/

[5] 横浜国立大学 情報基盤センター Adobe 製品の利用 (最終閲覧 2023/03/26):
https://www.itsc.ynu.ac.jp/class/adobe_apply.html

[6] 北海道大学 情報環境推進本部 本学提供ソフトウェアについて Adobe ライセンス (最終閲覧 2023/03/26):
https://www.oicte.hokudai.ac.jp/wp-content/uploads/2020/12/Adobe_00.pdf

[7] 北海道大学生協【在校生向け】Adobe ライセンス (最終閲覧 2023/3/26):https://ec.univ.coop/shop/c/c0106/

4 サービス関連

以上の現状を踏まえ、学術国際情報センターとのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. Adobe ソフトは現在、大学所有 PC のみの利用に限られていますが、実際に学生にどのくらい利用されているのでしょうか

A1. 統計がないので把握できていません。ポータル経由のダウンロードは年間 4000 程度あります。

Q2. MATLAB や Microsoft Office は、学生の個人利用 PC でも使用できますが、Adobe は利用できないのはなぜでしょうか。学生が使用できるソフトの選別基準などはあるのでしょうか。

A2. 全学生に配布する目的のソフトではないため。東工大では、包括系ソフトウェアを以下の 3 種類に分類しています。

- 研究系ソフトウェア
  - 研究室などで研究目的で利用するためのソフトウェア。以前は一部の部局で使用していたものを他部局でも利用できるようサイトライセンスを結んだ。個人 PC で利用できるかどうかはソフトウェアによる。スパコン（TSUBAME）の一部として契約しているソフトウェアもある。MATLAB や ChemOffice / ChemDraw などが該当。
- 事務系ソフトウェア
  - 業務に用いるソフトウェアであり、以前は個別に購入していたが、トータルコスト削減やライセンス不正使用の防止のために包括契約を結び複数部局で利用している。Microsoft Office や Adobe が該当。
  - Microsoft Office の場合、全教職員分の契約を結ぶと学生分ライセンスが無償で提供される教育機関向けライセンスプログラムがあり、その包括契約を結ぶことで学生が無償で利用できるようになっている。
  - Adobe の場合、業務での PDF の閲覧/編集（Adobe Acrobat の使用）が主目的である。Acrobat のみのパッケージは提供されておらず、Adobe CC として契約している。元々が業務目的であるため、学生所有の個人 PC での利用は契約に含まれていない。
- セキュリティソフトウェア
  - 安全上、全ユーザーに対してインストールを推奨し、購入しているソフトウェア。個人 PC へのインストールも可能。

また、キャンパスミーティングの中で、Adobe では教育機関がまとめて購入し、学生用に割り当てる学生ディスカウント（以下、学生用ライセンスパック）を提供している[1]と説明があり、学生用ライセンスパックに関するお話についても聞かせていただきました。学術国際情報センターからうかがったお話の一部を紹介いたします。

- 学生用ライセンスパックの適用を検討しましたが、実施には至っていません。
  - ライセンス数を決めて卸売をするため、売れ残った場合の費用負担が大きいです。
  - 人数（ライセンス数）により値段が変動します。
    - 現状分析の他大学の例で取り上げた北海道大学は総合大学であり、需要が多いため安く提供できていますが、東工大でどの程度の割引価格が適用されるのかは分かりません。
- 学生 Slack などを利用して購入希望人数がある程度確定できれば、Adobe 社への割引価格の確認については GSIC で対応します。
- その後の販売方法（大学生協との契約？）やライセンス管理方法、それらの工数確認などの検討も必要です。可能ならば、受益者負担として購入希望の学生の協力も得られるとありがたいです。
- 学生用ライセンスパックはユーザ指定ライセンスなので、サークルでの不特定多数による利用はライセンス違反となります。

[1] Adobe 社　Creative Cloud 教育機関向け ｜ 大学・高等教育機関（最終閲覧 2023/3/26）: https://www.adobe.com/jp/creativecloud/buy/education.html

提言

以上を踏まえて、学生向け Adobe アカウント導入に向けた支援について以下のように提言します。

- 学生用ライセンスパックの導入
  - まず初めに、Adobe CC を個人 PC への導入を希望する学生数の把握
  - その後、希望する学生数が多い場合、希望する学生の代表となる学生有志団体の設立を呼びかける
    - 学生有志団体：希望する学生の取りまとめや、不正利用対策や学生用ライセンスパックの販売方法の検討など、大学の関係部署と学生との調整役として導入に向けて主体的に動く団体

4 サービス

提言 4-4 奨学金や就活情報の発信強化

学生の意見

- 学士課程での就職・早期卒業者への支援、博士後期課程後の就職状況など就職情報へのアクセスや、奨学金の情報を知る機会を増やしてほしい。(類似意見 9 件)

現状分析

奨学金

学生の意見として、教務 Web システムの所属情報を利用して対象となる奨学金・支援制度を表形式にして一覧で見られるようにして自分に合うものを見つけたい、奨学金の情報を簡単に得たいとの声がありました。現在、東工大の学費・奨学金のホームページや窓口で、奨学金や支援制度の情報を得ることができるほか、一部の奨学金に関しては東工大メールアドレス(以下、m アドレス)あてに奨学金の情報やホームページへの紹介メールが送られてきます。しかし、ホームページをつぶさに確認しないといけないため、学生に負担がかかっていると考えます。

就職情報

学勢調査において、就活情報を知る機会を増やしてほしいといった意見もある一方、就活情報メールをもう送ってこないでほしいとの意見も見られました。また、英語での就活情報の配信や、学士・修士・博士後期課程の就活情報といった学生の所属や条件に合わせた情報配信や内定者の就活経験を後輩に伝える機会がない、との意見がありました。大学には様々な背景を持つ学生がおり、ダイバーシティ&インクルージョンを推進していく中で、個別状況に合わせて就活情報を提供することが難しくなることが懸念されます。

現在の東工大でのキャリア情報の取得方法を紹介します。

- 紹介メール(東工大生に一斉送信、または対象者に向けたメール)
  - 東工大の学生支援センター未来人材育成部門では、m アドレスあてにキャリア相談窓口から就職活動イベントの紹介メールが多く送られてきます。2022 年 1 月から 2023 年 1 月末までに 55 件のメールありました。
  - メールで紹介されたイベントの中で、内定者学生と就活を始める学生との交流イベントは、9/21,22 に実施された「夏休みキャリアガイダンス～就活を終えた先輩の話を聞こう～」の 1 件
- キャリア相談窓口
  - キャリアドバイザーと就職に関する相談ができ、教務 Web システムを通して面談の予約が可能
- 就活体験記
  - 教務 Web システムから 2019 年以降に投稿された体験記を閲覧することが可能
  - 2018 年以前のものは就活資料室で閲覧可能
  - 就職体験記についてのメールが、2-3 月に就職対象者に向けて送られてきた投稿のお願いのメールのみであり、あまり認知されていない可能性がある

また、東工大のキャリア・就職支援のホームページでは、学校推薦や専門分野特有の就職情報は、各系・学科・専攻のみが取り扱っている場合があり、各学院・系の教員や事務職員の方への相談が推奨されており、留学生の就職支援に関しては、JAPI(日本国際化推進協会)を始めとした団体への相談を紹介しています。

学生の意見でもありましたが、内定者と就活生との交流の場が少ないといった課題や、就職体験記の認知度の低さにより情報発信が不足していると考えられます。

以上を踏まえて、学生支援課(経済支援グループ)および学生支援センター未来育成人材部門(キャリア支援)とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答を頂きました。

Q1. コロナ前(2020 年以前)とコロナ後(2020 年以後)における奨学金や就活情報の問い合わせ数、奨学金申請数の変動を教えていただきたいです。

A1. (学生支援課・経済支援グループ)コロナ前後で変化はあまりない。

(学生支援センター未来育成人材部門・キャリア支援)コロナ後は相談件数が 25%増えている。

Q2. コロナ禍になり、学生が大学キャンパスに来ないなどといったことがあり、情報発信が難しくなったと思います。奨学金や就活情報の発信に関して、コロナ前から取り組んでいること、そしてコロナ禍から新しく取り組んだことがありましたら教えていただきたいです。

A2. （学生支援課・経済支援グループ）奨学金の情報を詳細に分類しすぎると見づらかったり、条件が別々になってしまったりと余計に複雑になってしまう。そのため、学生自身が調べる形になってしまっている。留学生に対しては、出身国によって対応が異なるため、条件が合致した人に対しては個別にメールが送信される。
また、奨学金や支援制度をメールや窓口で相談する上で、学年や所属を明らかにしてもらえるとありがたい。

（学生支援センター未来育成人材部門・キャリア支援）コロナ後は大学の入構制限があったため、すぐに Zoom 相談に切り替えた。就職ガイダンスも Zoom で配信し、その後 Webiner 登録者に対して録画を提供。就活体験記は、就職ガイダンスでも紹介している。

提言

以上を踏まえて、奨学金や就職情報の発信強化について、以下のように提言します。

- 既存の仕組み（ホームページや学院や系の相談窓口など）の広報や認知度の向上に向けた取り組みの実施を強化する。
  - 全学利用の Slack を活用
    - 「#修士_奨学金」や「#博士_就活情報」といったチャンネル分けをし、希望者が参加する形に。
- （学生支援センター未来育成人材部門・キャリア）内定者と就活生の交流の機会を増やす。
  - 2022 年 9/21,22 に実施された「夏休みキャリアガイダンス～就活を終えた先輩の話を聞こう～」のようなイベントの開催回数を増やし、学生間での情報共有や、内定者を通して就活生に向けた就職イベントの広報などを実施
    - 就職活動の経験を後輩に伝えたいとの声があり、就活生にとって同じバックグラウンドを持つ先輩の体験談が非常に参考になる。

4 サービス

提言 4-5 留学に関する現行の制度の継続・強化

学生の意見

No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。」という質問に対する回答。

- 「語学に自信がない」(選択式回答、1314 人/2671 人、全体の 49%)
- 「経済的理由」(選択式回答、1271 人/2671 人、全体の 48%)
- 「情報がない」(選択式回答、326 人/2671 人、全体の 12%)

No.59「留学に関する取り組みについて、良いと思うもの(複数選択可)」という質問に対する回答として、以下のものを選択した学生の人数も多かったです。

- 「留学奨学金」(選択式回答、839 人/2671 人、全体の 31%)
- 「留学コンシェルジュ」(選択式回答、492 人/2671 人、全体の 18%)
- 「留学イベント」(選択式回答、419 人/2671 人、全体の 16%)
- 「グローバル理工人育成コース」(選択式回答、508 人/2671 人、全体の 19%)

また、No.55「留学しようと思ったきっかけを教えてください」という質問に対する回答として、以下のような自由記述の回答が見られました。

- 留学しようと思ったきっかけとして、留学なら資金援助があること。(同様意見 6 件)

現状分析

学勢調査 2022 では、留学に関する制度についての意見が多く寄せられています。本提言では、留学に関する現行制度についての分析を行い、1.奨学金、2.留学コンシェルジュ制度、3.留学イベント、4.グローバル理工人育成コース の 4 つに注目して提言をまとめました。

全体の約 70%が(程度に差はありますが)留学してみたいと回答しました(図 4-5.1)。しかし、アンケート実施時には全体の約 80%の学生が留学していません(図 4-5.2)。このギャップがどのように生まれているのかを見ると、留学に関する主要な障壁の 1 つに、「経済的理由」(約 48%)があることがわかります(図 4-5.3)。

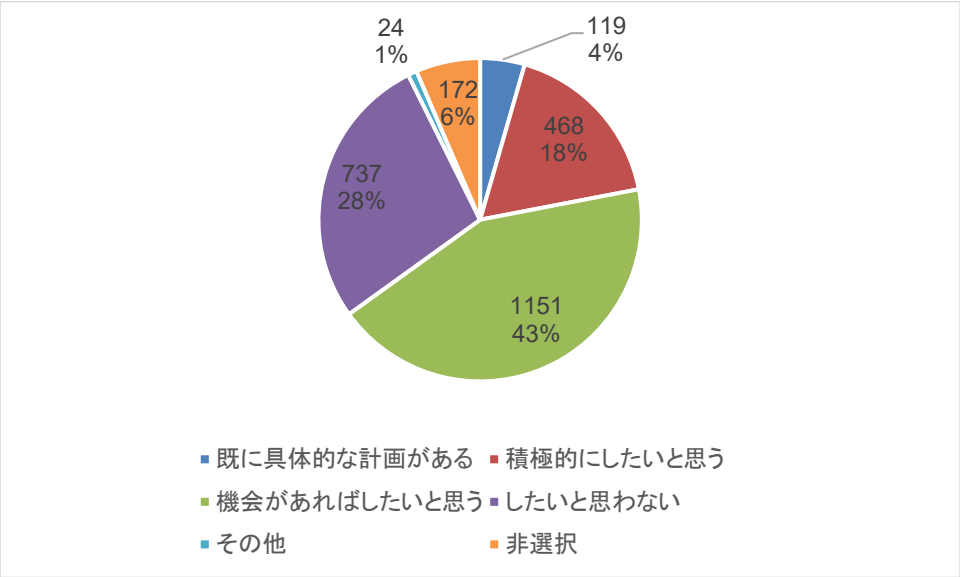

図 4-5.1 「留学をしてみたいと思いますか。」への回答割合

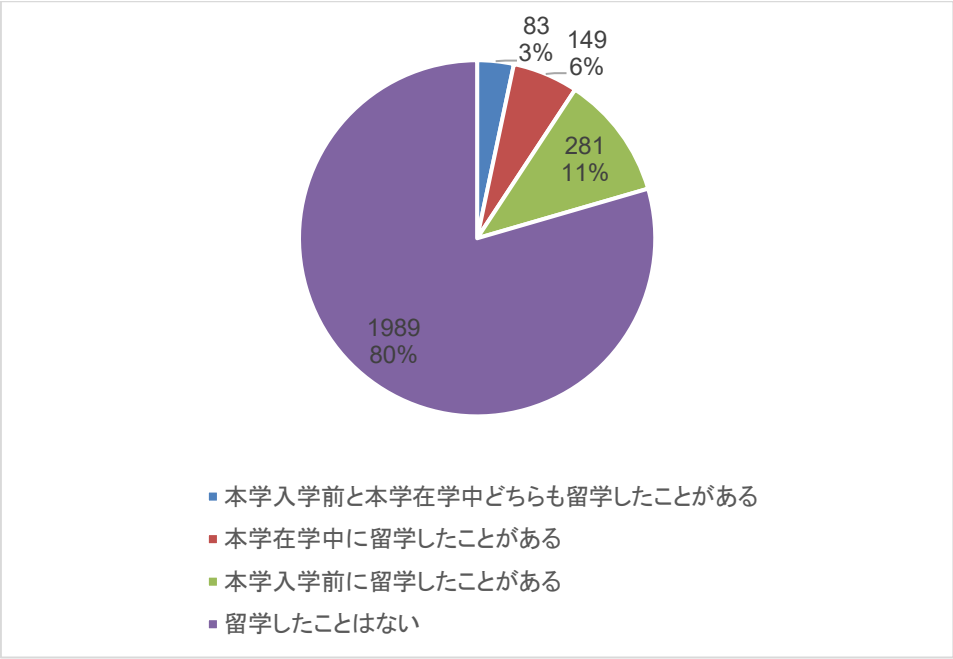

図 4-5.2「あなたは留学したことがありますか。」への回答数

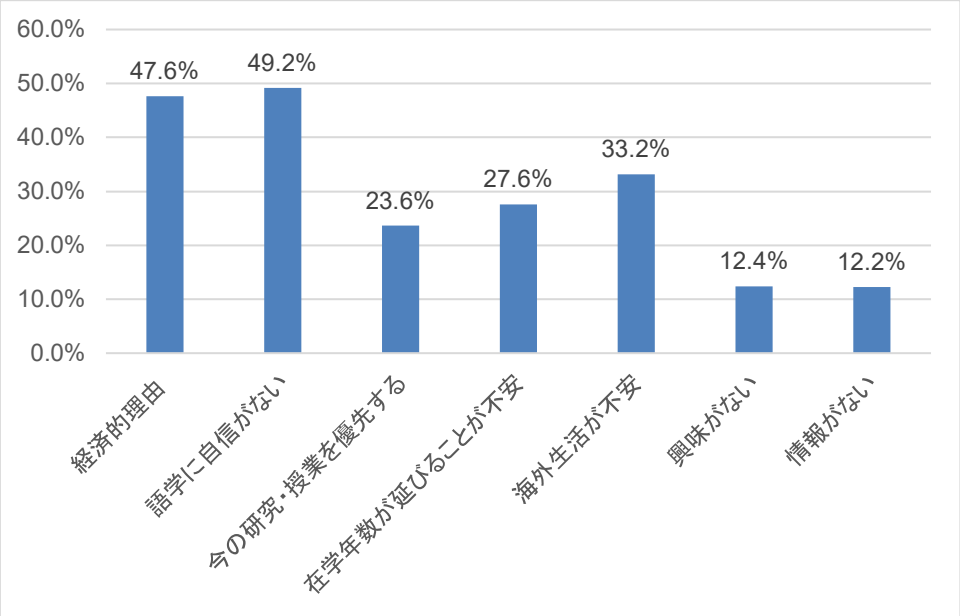

図 4-5.3「留学を考える上で何か障壁はありますか。」における選択率

また、ここで、留学に関する東工大の取り組みについて、学生が良いと思っているものを紹介します。「留学奨学金」と回答した学生が 30%以上となっており、他の取り組みと比べても最も高い評価を得ていることがわかりました（図 4-5.4）。

4 サービス関連

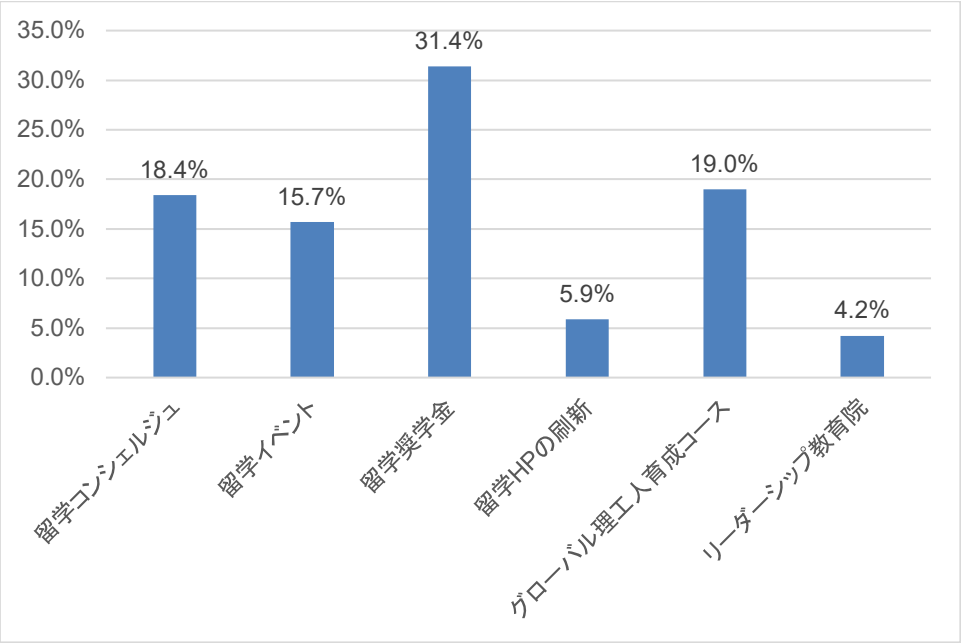

図 4-5.4「留学に関する東工大の取り組みについて、良いと思うものがあれば教えてください。」への選択率

経済的支援が留学を促進するということに関して、以下、奨学金の利用が留学のきっかけとなった事例 6 件について紹介します。

「留学しようと思ったきっかけを教えてください。」という質問に対して、「留学ならば資金補助がある」という回答が 6 件ありました。具体的には、「B2D でお金が少し出るから」「グローバル理工人からのメールで、全く留学費用がかからない外部プログラムの留学の案内を見つけたため。」と、大学が実施している奨学金を利用できることを知ったことが留学のきっかけになったという回答がありました。「殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成プログラムに採択され、学外活動を行うため。」という回答もありました。本奨学金は、本大学が博士後期課程を対象に、生活費相当額の研究奨励費と研究費の支援を 3 年間受給するものです。

加えて、学外の奨学金である、「次世代研究者挑戦的プログラム（JST）に採択されたため」、との具体的な回答も 2 件ありました。学外奨学金を学内向けて周知することも、留学を促進するものと推察されました。

これらの現状を踏まえ、奨学金に関して留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. (制度実態)昨年度の日本からの留学における奨学金の規模(金額と期間)とその対象者を教えていただけないでしょうか?

A1. JASSO の奨学金は、全体で年間 5000 万円程、学生 1 人当たり 8 万円程利用可能です。東工大基金は、留学生交流課が把握している額で、(出資してくださる人数や金額により、年ごとに差が出る)全体で年間 500 万円ほど、こちらも学生 1 人当たり 8 万円程利用可能です。各財団が募集しているものもあり、この奨学金は多種多様。比較的期間が長い留学に行く学生は、各財団が募集している奨学金を利用する傾向があります。

Q2. (利用実態)昨年度の日本からの留学における奨学金制度の制度別利用者数と利用率を教えていただけないでしょうか?

A2. GPA が 2.3 以上で応募が可能であるなど、間口が広いため、JASSO 奨学金は応募しやすいです。申し込んだ学生のうち、8 割程が審査を通ります。審査通らなかった、残りの学生が、東工大基金を利用する印象です。

Q3. (制度今後)今後の奨学金の拡大/縮小見込み等ありましたら、その背景(理由)を教えていただけないでしょうか?

A3. (拡大/縮小)JASSO の奨学金は、超短期的な(ex.8 日間)留学も受給の対象でしたが、来年度からは 31 日以上の留学が対象に変更されます。受給額に変更はありません。

(拡大/縮小)東工大基金は(Q1 にもあるように)、出資してくださる人数や金額により、全体の規模額が変わるため、年によって拡大/縮小があります。これに関しては、取り扱っている部署(留学生交流課の管轄外)の営業努力次第の部分もあり、年ごとに変化します。

(縮小)トビタテ！留学 JAPAN は、来年度から、高校生への支援を強化するにあたり、大学生の枠が減ります。毎年、本学の学生の採択が多かった印象ですが、採択数は減るだろうと予想しています。

(拡大)留学奨学金制度を実施する財団が、増えている印象はあります。

奨学金以外にも、留学に関する取り組みとして学生からの評判が良い(図 4-5.4)、グローバル理工人育成コース・留学コンシュルジュ・留学イベントについても以下のように分析しました。

グローバル理工人育成コースは、奨学金に次いで学生からの評判が良い制度です(図 4-5.4)。また、留学における障壁(図 4-5.3)において約 50%を占める「語学に自信がない」および約 12.2%を占める「情報がない」という問題に対して効果的にアプローチが可能な制度であるように思われます。以下の図 4.5-5 および図 4-5.6 から分かるように、グローバル理工人育成コースは特に学士課程の学生からの評判がよく、「語学に自信がない」という学生に対して評判のよい制度となっていることが推測されます。また、コース履修生は、TOEIC/TOEFL の無料受験、オンライン英会話の無料受講の特典が優先的に受けられるなど、英語力向上のための機会が優先的に設けられていることも、半数を占める「語学に自信がない」と答えた層への、留学者を増やすという観点では非常に効果的な方法ではないかと考えられます。

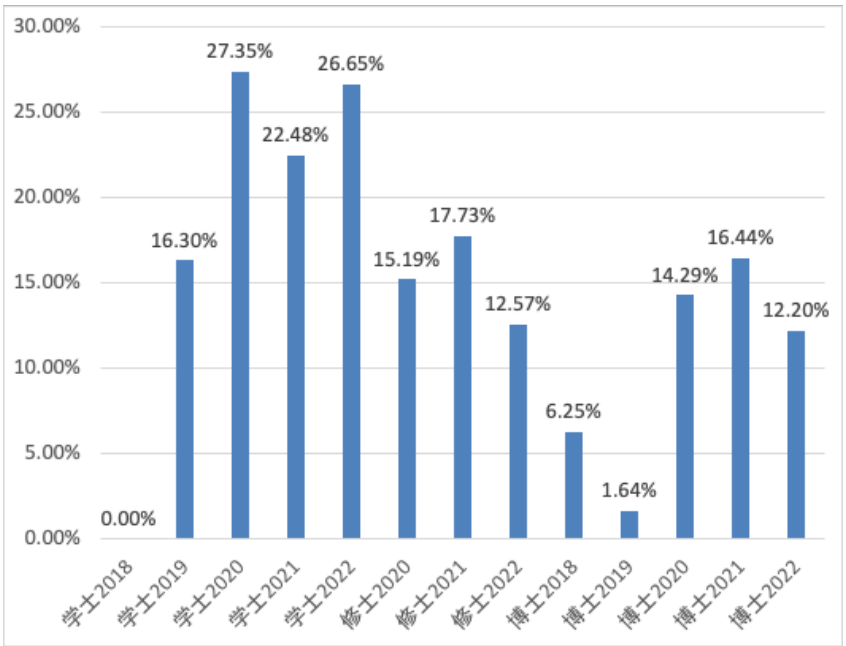

図 4.5-5 評価する取り組みとして「グローバル理工人育成コース」を選択した人の課程学年別割合

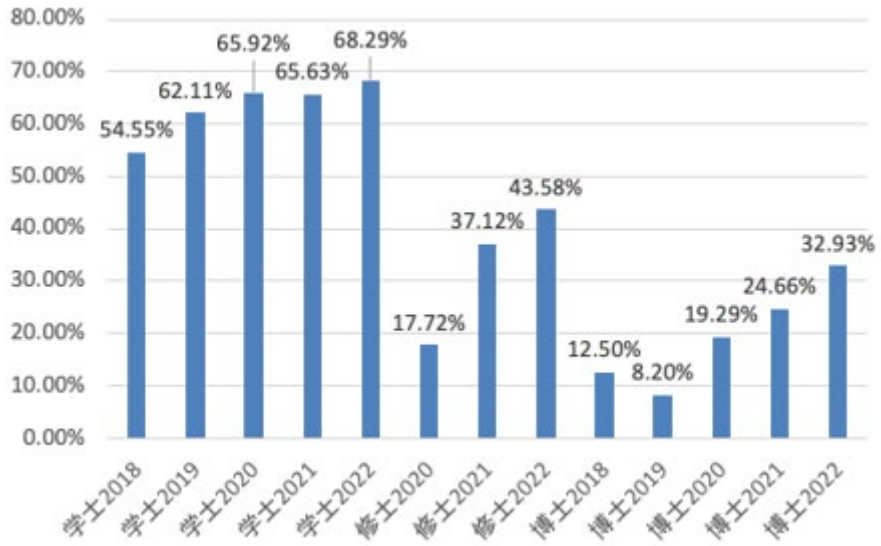

図 4-5.6 留学の障壁として「語学に自信がない」を選択した人の課程学年別の選択率

加えて、「留学をしようと思ったきっかけを教えてください。」という設問への自由記述の回答を参照してみると、以下のような意見がありました。

- 超短期派遣に参加して、刺激を受けた（複数件）
- グローバル理工人育成コースに所属したこと
- グローバル理工人育成コースのオンライン留学を受けて
- 留学について考えるオンライン講義で興味を持ったため

超短期派遣という 1～2 週間程度で開催される留学プログラムが気軽で楽しめたことで、次の留学につながるという意見が見られ、コロナで過去 2 年程プログラム数がかなり減っていましたが、今後も短い期間の留学の継続が望ましいという可能性が示唆されました。

これらの現状を踏まえ、グローバル理工人育成コースについて留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

A1. この制度は、2013 年に、大学・企業などでグローバルに活躍できる人材を育成することを目的として、開始しました。現在、学士課程の学生が 2000 人、修士課程の学生が 100 人程度所属しています。修了のための条件が厳しいためか、修士学生の履修者数は学士課程に比べて、少なくなっています。指定科目の履修、留学、語学力(例えば、TOEIC で何点以上等)の所定条件を満たすと認定されます。学生に留学をしてもらうことがこのコース設置の目的では無く、大学卒業後のその先を見据えたカリキュラムになっています。具体的には、学生にいろんな大学・企業で活躍してほしいと考えております。また、留学した方の経験を紹介するシンポジウムも開催しています。

Q2. グローバル理工人育成コースでは、どのような目的での利用者が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほど(利用者数と利用率)あるのか、教えていただけないでしょうか。

A2. 留学に行きたいという学生の利用が多いです。また、コース在籍者は TOEIC/TOEFL の無料受験、オンライン英会話の無料受講の特典が優先的に受けられるなどの理由から、英語力を高めるための履修が多い印象です。

Q3. 今後のグローバル理工人育成コースの拡大、縮小見込みとその背景(理由)を教えていただけないでしょうか?

A3. 超短期派遣留学は、2022 年度夏にタイ、そして、春に 4 プログラム(シンガポール、シンガポール＆マレーシア、イギリス、オーストラリア)復活しました。1 プログラム 12 人ほどの採用で、年間 10 プログラムぐらい本来は実施しており、来年度にはさらに他のプログラムも再開する予定です。

図 4-5.4 において 3 番目に選択率が高い留学コンシュルジュについても、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下のような回答をいただきました。

Q1. どのような目的で留学生コンシェルジュ制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

A1. 2013 年度から、南 6 号館の 1 室で始動しました。Taki Plaza プラザ完成後から現在にかけては、Taki Plaza プラザ地下 1 階のブースを使うようになり、利用者数が増加しました。学期始まりの 4 月・10 月あたりに利用者が多いです。留学に関する相談を、1 回 1 時間、留学経験または海外での学位取得経験のある者が対応しております。学生団体である FLAP に協力していただき、留学コンシェルジュ制度の周知を行ってもらっており、コロナ禍で、オンラインでの相談も開始し、現在は、Zoom、対面両方で相談を受け付けています。

Q2. 昨年度の日本からの留学における留学コンシェルジュ、どのような目的での利用者が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほど(利用者数と利用率)あるのか、教えていただけないでしょうか。

A2. 年間に 100 人ほどの利用者がおり、学期の始まりの時期は、利用者が増えますが、そうでない時期は週に 1、2 人ほどの学士の利用があります。学士の方がメインで 7 割ほど、その他大学院生が 3 割ほどです。学士の方は留学したいけれど、何をすればいいかわからない、という相談が多く、修士以降になると、具体的にしたいことはあるが、どのためにどうすればいいのかわからないという相談が増えます。

Q3. 今後の留学コンシェルジュの拡大、縮小見込みとあればその背景を教えていただけないでしょうか?

A3. 縮小の予定はなく、制度の拡大を進めていければと考えています。例えば、FLAP(トビタテ! 留学 JAPAN の説明依頼や、留学書類のチェック委託等、既に行っている状態。)との、さらなる連携を強化・模索できればと思っています。

図 4-5.4 において 4 番目に選択率が高い留学イベントは、課程ごとに比較すると、博士後期課程における評価が高いことがわかります(図 4-5.7)。また、27.85%と修士 3 年目の学生が多いことから、もう少し詳細な分析を行いました。すると、図 4-5.7 で 20%を超えたのは、過去の留学経験が多い区分(修士 2020 及び博士後期課程)だとわかりました(図 4-5.8)。

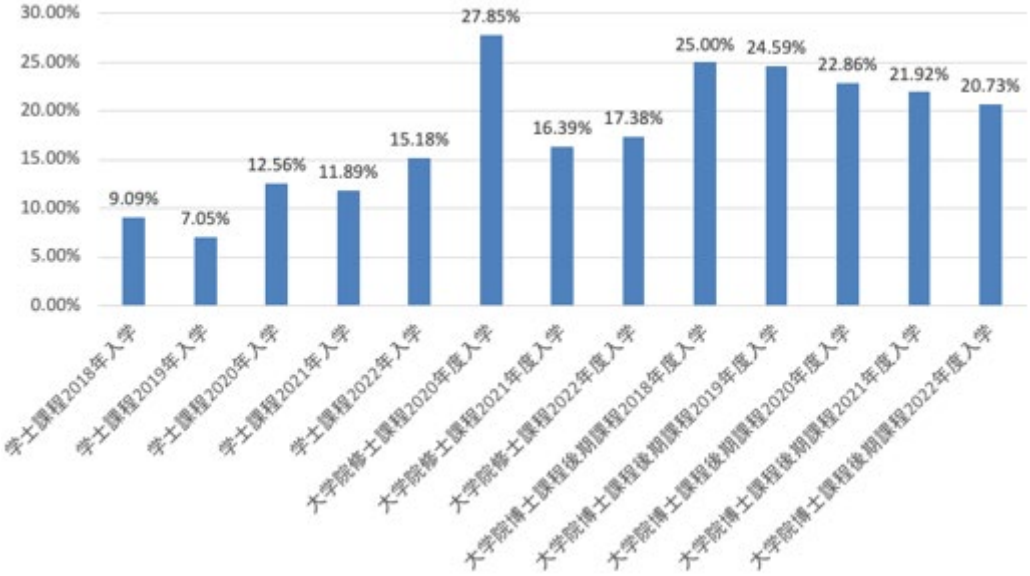

図 4-5.7 評価する取り組みとして「留学イベント」を選択した人の課程学年別割合

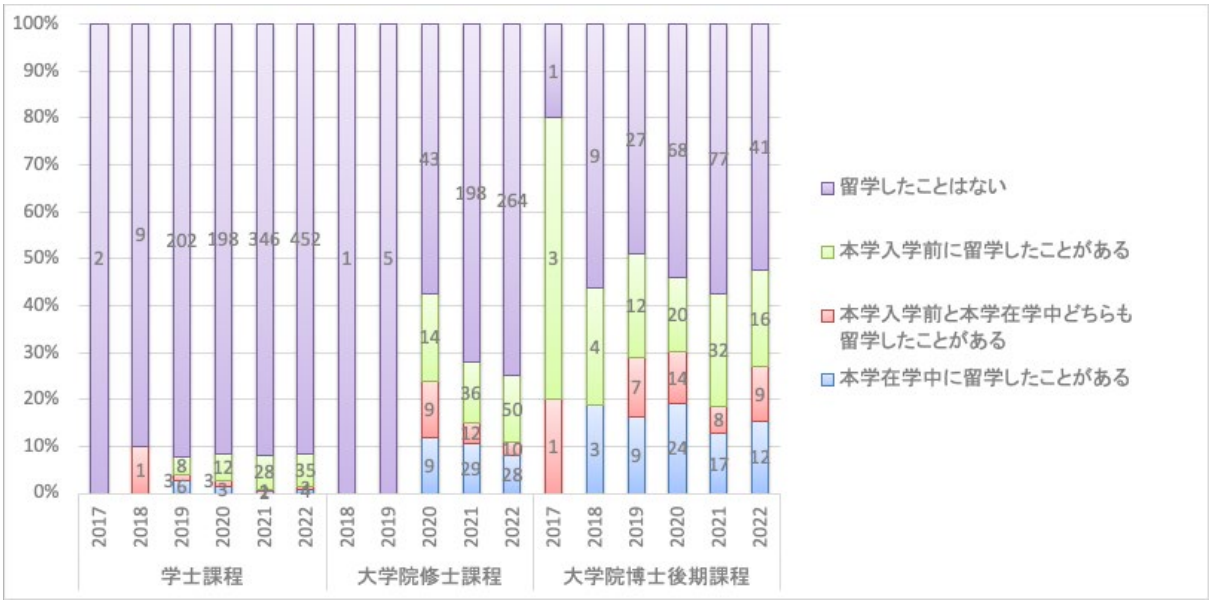

図 4-5.8 留学経験者の課程学年別割合

これらの現状を踏まえ、留学イベントについて留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

A1. (東工大留学フェア)一番大きな留学イベントは、東工大留学フェアと呼ばれるもので、コロナ前は蔵前会館で実施していました。4、5 月の履修登録を終えて落ち着いた時期に、実施していました。学士 1、2 年性を中心に毎年 500 名近くに参加していただいておりました。今後は、Taki Plaza とのハイブリットで実施していく予定です。(2022 年度の東工大留学フェアの開催報告は、以下の URL を参照[https://www.titech.ac.jp/news/2022/064384])

(留学説明会) Taki Plaza で実施される 4 月の若葉祭でも、ブースを設け、留学説明会を実施しております。

(留学報告会・留学座談会)コロナ前まで、水曜の午後の時間帯に実施していた留学報告会・留学座談会ですが、再開予定です。

(留学シンポジウム)学内やグローバル理工人育成コース修了した社会人を、バラエティが出るように 3 人ほどお招きして、留学の経験を紹介するシンポジウムも開催しております。

Q2. 昨年度の日本からの留学における留学コンシェルジュですが、どのような目的での利用者が多いのか、また利用目的別にどのような学生の利用がどれほどあるのか、教えていただけないでしょうか。

A2. 目的としては、留学に関する情報を集めるために来てくれる学生が多く、元々少しでも興味のある学生が来ていたり、友達に誘われて来ていたりする印象です。予約なしでふらっと立ち寄れ、留学コンシェルジュよりも間口が広いイメージです。学士 3-4 年の学生から、英語や語学を早いうちに学べばよかったという意見があり、学士 1、2 年生がターゲットのイベントが多いです。実際に学士 1、2 年生が参加者の 7、8 割を占めます。修士学生向けのイベントの実施は特に企画していませんが、別部署のものはあります。

Q3. 今後の留学イベントの拡大、縮小見込みとあればその背景(理由)を教えていただけないでしょうか?

A3. 留学交流会の参加対象者を、現在留学イベントなどで、高校生や保護者の方にも拡大しています。また、留学座談会は、今後再開予定です。

提言

以上を踏まえて、留学に関する現行 4 つの制度について次のように提言いたします。

1. 留学奨学金制度の強化・継続

   半数近くが留学の障壁として上げる経済的な理由を解消すべく、現行の奨学金制度の強化・継続することを提言します。東工大の取り組みとして 30%以上が評価していることから、現行の制度の継続もこの提言に含みました。どの学年もほぼ半数近くが経済的理由を障壁と挙げていることから、課程により対象を絞らずに継続・強化することを提言いたします。

2. グローバル理工人育成コースの強化・継続

   留学の障壁として最も多く挙げられている「語学に自信がない」という理由の解消、および 12%近くが留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由の解消のため、現行のグローバル理工人育成コースの強化・継続することを提言します。本コースを評価する人数・割合は課程別に見ると学士課程が最も高くなっており、これらの学年区分を対象にした留学イベントが有効に機能している可能性も示唆されました。

3. 留学コンシェルジュ制度の強化・継続

   12%が留学の障壁として挙げる「情報がない」という理由を解消すべく、現行の留学コンシェルジュ制度を強化・継続することを提言します。その際、修士課程・博士後期課程に比べ、「情報が少ない」を選択する割合が高かった学士課程に少しウエイトを置いた制度の強化・継続が望ましいと推察できました。

4. 留学イベントの強化・継続

   現行の留学イベント制度の強化・継続することを提言します。既存の留学イベントは、実際に留学経験のある人が多い層(大学院修士課程 3 年目、大学院博士後期課程)からの評価が高く、実際の留学のきっかけになりやすい、または留学において有用なイベントとなっていると考えられます。さらには留学の障壁として挙げられる「情報がない」という問題の解消にもつながると考えます。

4 サービス

提言 4-6 コロナ収束後のオンライン留学の継続

数値データ分析

No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。」という質問に対する回答として、以下のものを選択した学生の人数が非常に多かったです。

- 留学を考える上での障壁は「経済的理由」(選択式回答、1271 人/2671 人、全体の 48%)
- 留学を考える上での障壁は「海外生活が不安」(選択式回答、887 人/2671 人、全体の 33%)

現状分析

留学の障壁として、経済的理由が半分以上、海外生活が不安と答える人が 3 分の 1 おります(図 4-6.3)。これらが障壁になっていることで留学の機会を逃している学生のために、オンライン留学という解決方法について提言いたします。

学勢調査 2022 における留学に関するアンケート結果は以下の様になりました。

回答者のうち、全体の 70%あまりが少なくとも機会があれば留学したいと考えております(図 4-6.1)。しかし、アンケート実施時には全体の 75%において留学経験がありません(図 4-6.2)。留学に興味がないことが留学の障壁だとする学生は、全体のわずか 12%であり(図 4-6.3)、これは、留学の障壁が取り除かれれば留学をする学生が大幅に増えることを意味します。また、留学の障壁として、約半数の 48%が「経済的理由」を挙げております。

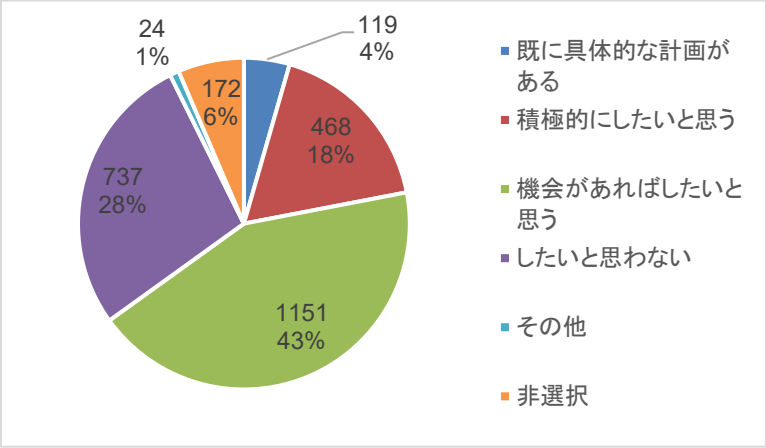

図 4-6.1 留学希望に対する回答

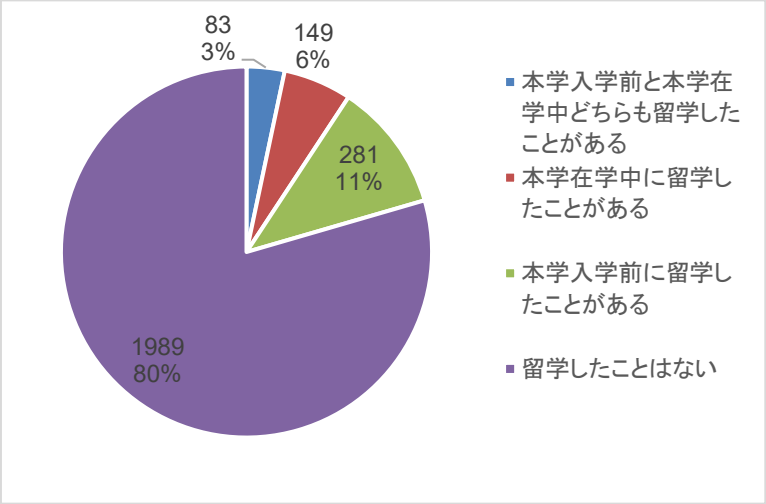

図 4-6.2 留学経験有無、またその時期

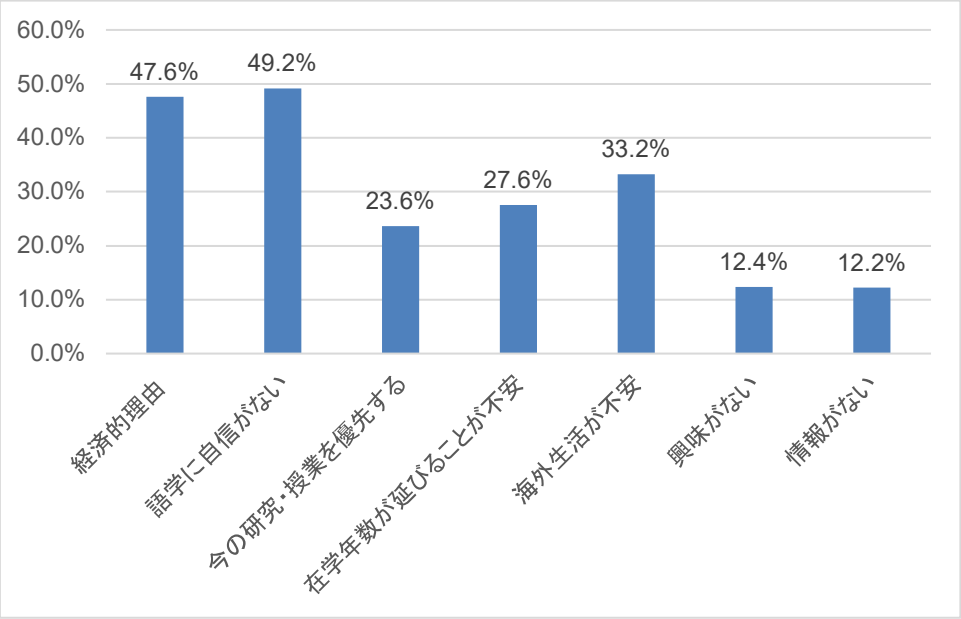

図 4-6.3 「留学を考える上で何か障壁はありますか。」における選択率

留学の障壁として、「経済的理由」をあげた人の学年別人数と、回答者に占めるその割合を算出いたしました。その結果は以下に記します。なお、回答者総数が 10 人以下と少ない、学士課程入学年度 2017 年、修士課程入学年度 2018-2019 年、博士後期課程入学年度 2017 年は、割合のグラフでは削除しました（図 4-6.5）。

人数で見ると、学士、修士、博士後期課程の順で減っていき、学年が若いほどに選択者の人数も多いことがわかりました(図 4-6.4)。しかし、割合で見ると、ばらつきに変化があります。全体平均 48%であるから、修士課程 2020 以外は割合に関する大きなばらつきはなかったものの、修士・博士後期課程の割合が、学士に比べてわずかながら大きいと見えます。修士課程 2020 が 66%と突出して大きい(図 4-6.5)のは、在学中に留学をしたことで奨学金を獲得する大変さを理解したのではないかと推測しました。

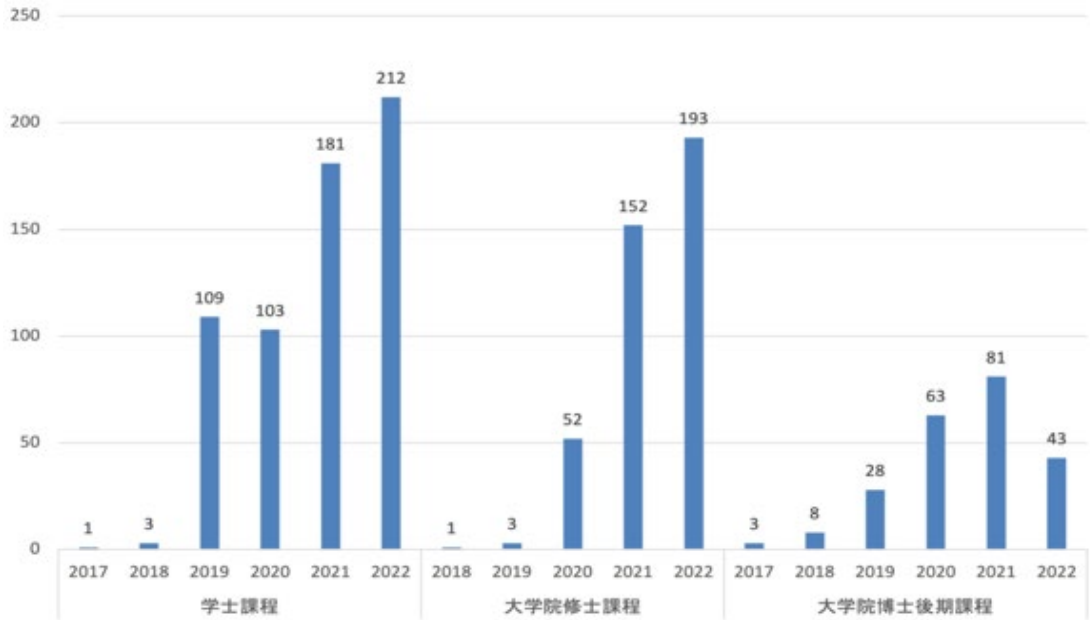

図 4-6.4 留学の障壁「経済的理由」、課程入学年度別分析(人数)

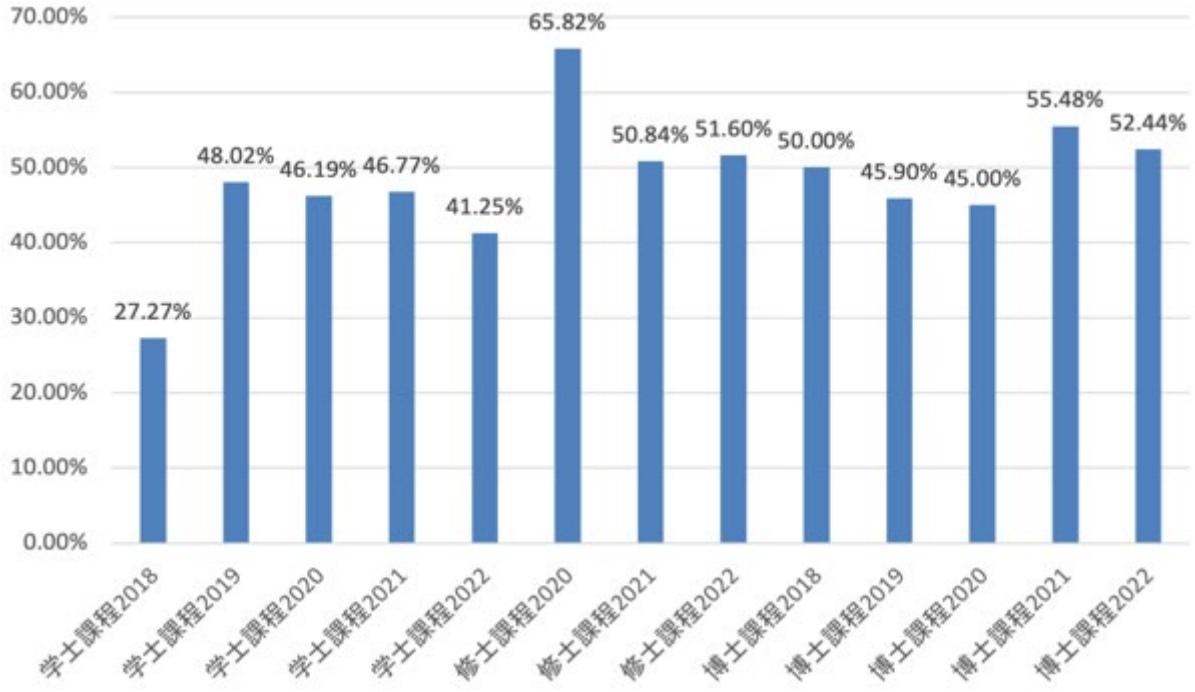

図 4-6.5 留学の障壁「経済的理由」、課程入学年度別分析(割合)

同様に、留学の障壁として、「海外生活が不安」を選択した人の学年別人数と、回答者に占めるその割合を算出いたしました。

図 4-6.6 に示された人数を見ると、先ほど同様、学士、修士、博士後期の順で減っていくことがわかります。また、学士、修士は、学年が低くなるほど、その人数が多くなる傾向です。図 4-6.7 に示した割合を見ると、回答者数に占める割合がわかります。回答者全体における、海外生活が不安を留学の障壁として選択した学生の割合は、33%です(図 4-6.3)。この平均値は、ほぼ 2 人に 1 人が選択した学士課程の学生によって大きく押し上げられていることがわかります。学士課程では、学年が下がるごとに、その割合が下がる傾向があることがわかります。同一課程において、学年が低くなるにつれて選択者の割合が減る傾向は、修士課程、博士後期課程でも同様です(図 4-6.4)。

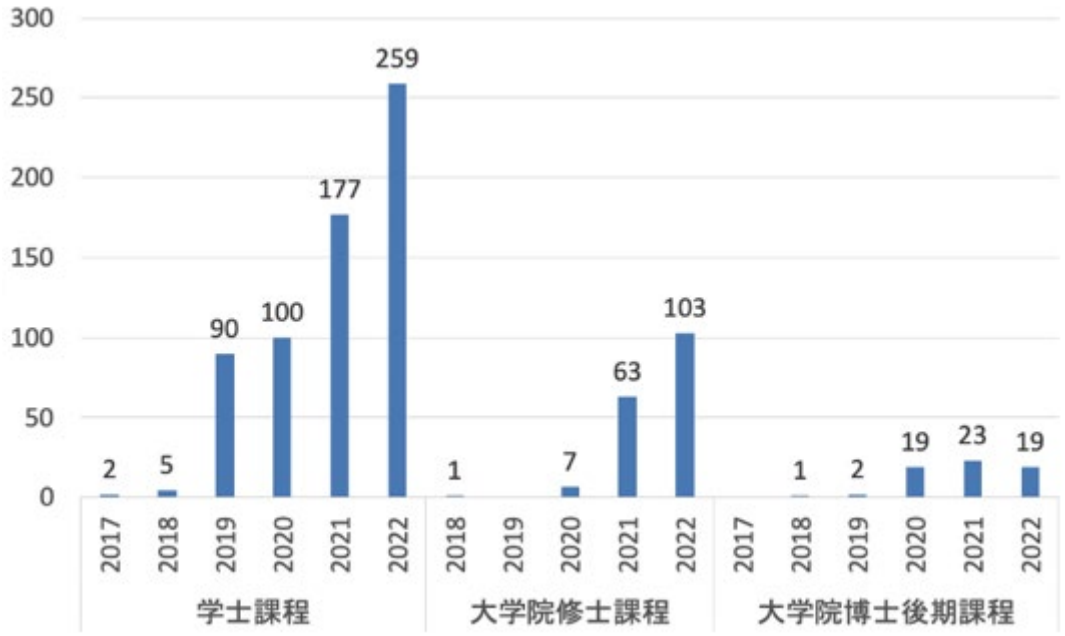

図 4-6.6 留学の障壁「海外生活が不安」、課程入学年度別分析(人数)

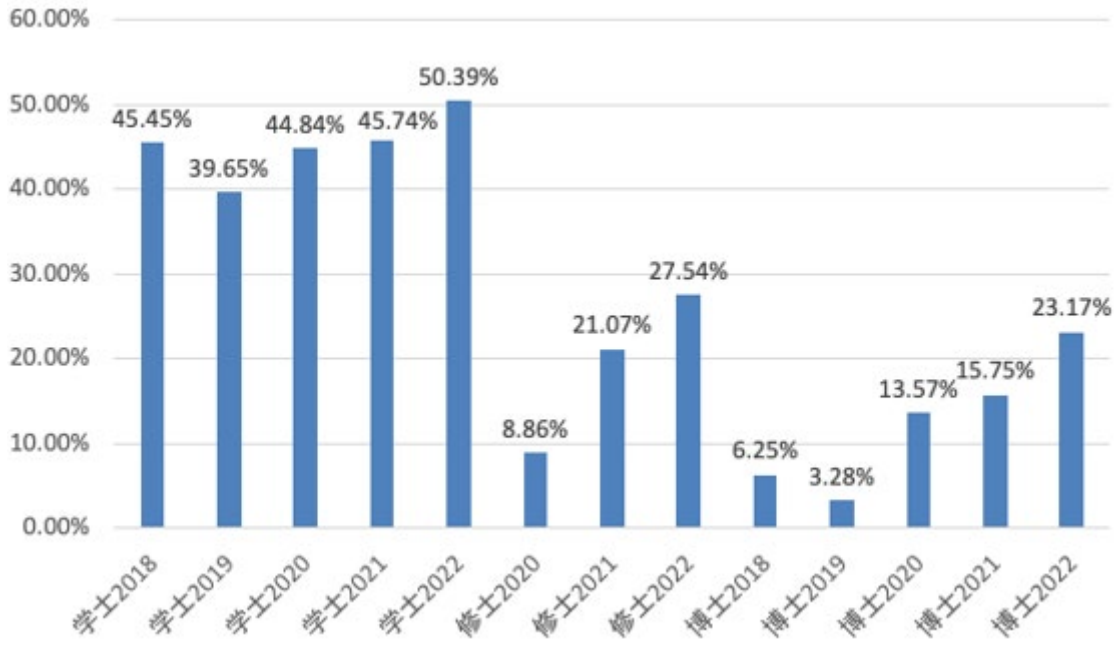

図 4-6.7 留学の障壁「海外生活が不安」、課程入学年度別分析(割合)

その他の留学への障壁も、オンライン留学のカリキュラム設計の参考になればと、割合のみですが、学年ごとの分析結果を示します。図 4-6.8～12 の順に、「語学に自信がないこと」「今の研究・授業を優先する」「在学年数が延びることが不安」「興味がない」「情報がない」となっています。

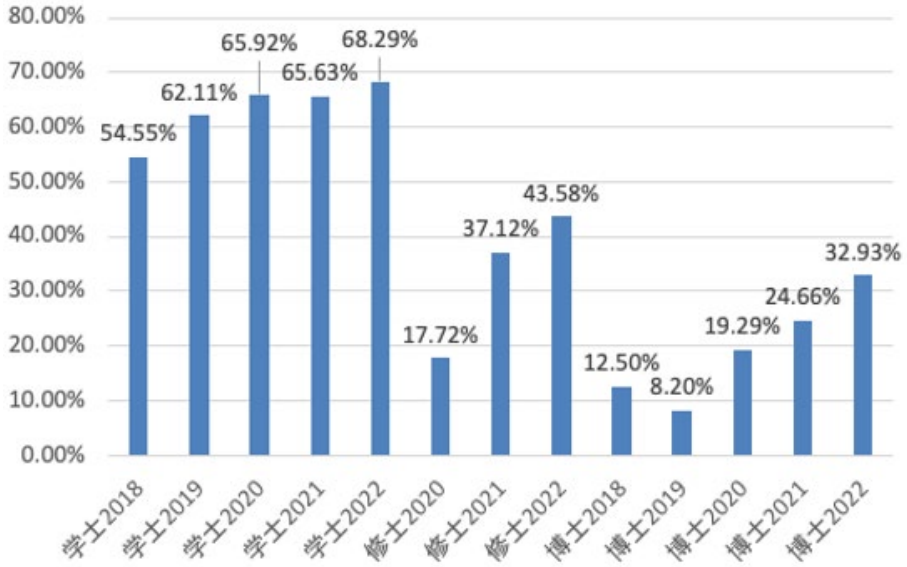

図 4-6.8 留学の障壁「語学に自信がないこと」、課程入学年度別分析(割合)

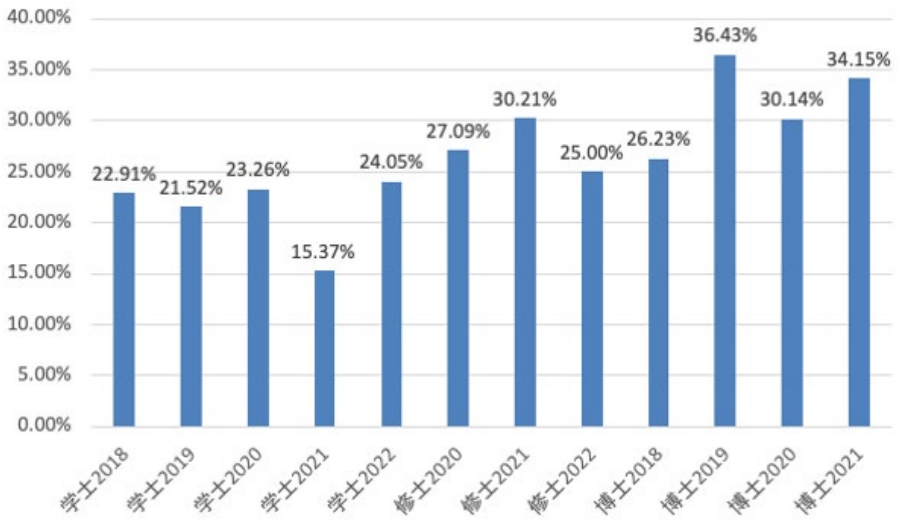

図 4-6.9 留学の障壁「今の研究・授業を優先する」、課程入学年度別分析(割合)

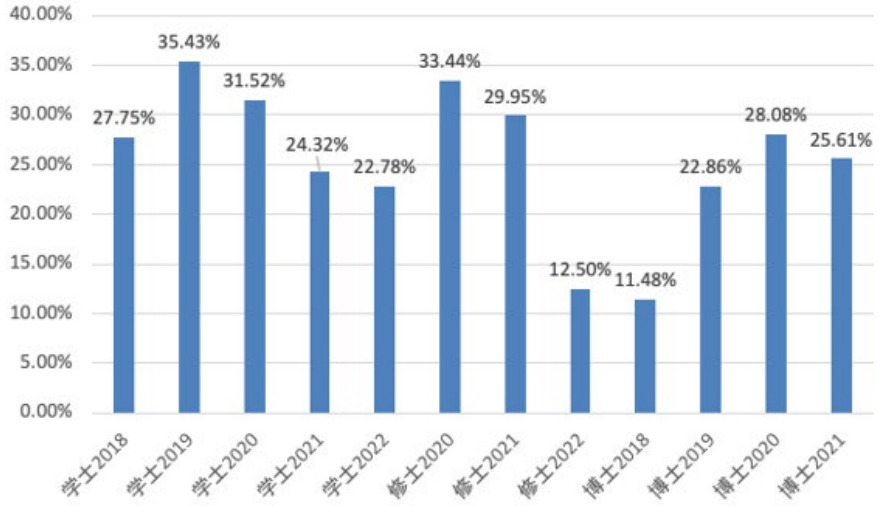

図 4-6.10 留学の障壁「在学年数が延びることが不安」、課程入学年度別分析(割合)

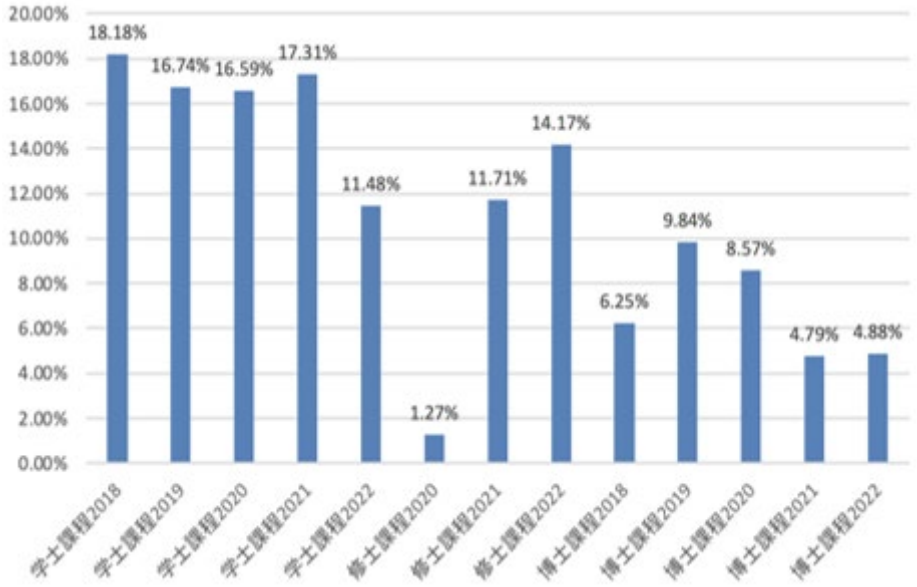

図 4-6.11 留学の障壁「興味がない」、課程入学年度別分析(割合)

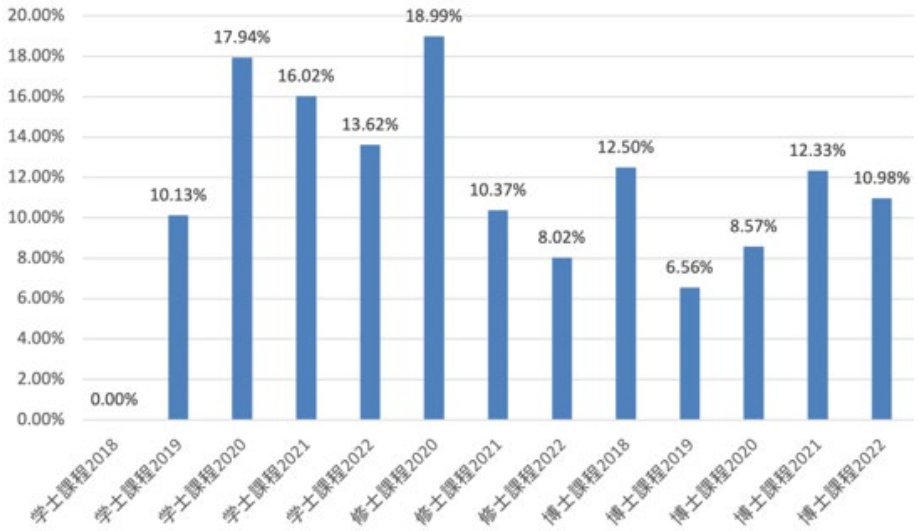

図 4-6.12 留学の障壁「情報がない」、課程入学年度別分析(割合)

選択式回答とは別に、どのようなカリキュラム構成のオンライン留学需要があるか、参考となるよう、No.55「留学のきっかけを教えてください」という自由記述式の設問への回答を紹介します。

全ての自由記述回答に目を通し、分類し、同意見が日本語のものは5件以上、英語のものは3件以上含まれるものを記載いたしました、非常に参考になる分析結果と推測いたします。ただし、英語での回答においての留学が指す意味合いは、「日本に現在来ている留学を指す場合」と「今後の日本からの留学を指す場合が混在している点」に注意いただければ幸いです。

<u>具体的な理由</u>

- 「語学力を上げたい、外国語を話したい」(同数意見102件)
- 「実際に外国人と英語で話したい、話せるようになりたい」(同数意見24件)
- 「海外で働きたい(研究したい)、日本よりも海外で働くことに魅力、海外でキャリアを積むのはどういうことなのか知りたい」(同数意見17件)
- 「海外将来に住みたい、海外で生活できるようになりたい、海外で住むという選択肢を持っておくため」(同数意見16件)
- 「海外で学位を取りたい,海外の研究環境(取組み)や研究姿勢を知りたい」(同数意見20件)
- 「学会発表、ディスカッション等、研究・論文における英語力・海外の人との交流の必要性 」(同数意見9件)
- 「海外の教育環境、授業、大学生活、学生のレベルを知りたい」(同数意見16件)
- 「海外の学生・研究者と交流したい、彼らの考えを知りたい」(同数意見12件)
- 「興味ある分野に強い国、最先端の国で勉強・研究したい」(同数意見8件)
- 「日本で学ぶだけだと事足りない、海外の方が研究のレベル高い」(同数意見11件)
- 「今の経済等の動向から、日本よりも海外の方が発展しているため、将来的に日本にとどまらずに活動してみたいと思うから。日本で生涯裕福に暮らしていけるか不安なため」(同数意見7件)
- 「行きたい国、大学、研究室が海外にある、もしくはあれば行きたい」(同数意見13件)
- 「過去の留学経験・海外学会訪問・国際協力研究・在住経験・海外旅行経験が良かった、過去の留学でうまくいかなかったことをリベンジ」(同数意見34件)
- 「過去に留学経験、在住経験があった」(同数意見6件)
- 「親・大学の先生等、周囲の勧め、友達に誘われた」(同数意見14件)
- 「留学生・外国の人・技術者・科学者との交流した経験が良かった、もっと交流できるようになりたい」(同数意見10件)
- 「留学経験者・留学生等の周囲からの話、説明会での話、パンフレットを見たのが良かった。留学経験者・海外移住者を見て留学したいと思った、周りにしている人多い」(同数意見50件)
- 「外国の文化に触れているから。海外のものが好きだから」(同数意見6件)
- 「就活、キャリア形成の強みになるから」(同数意見9件)
- 「大学生のうちに留学したい、時間があるのが今だから、社会人なったら留学の機会減るから」(同数意見

12件）

- 「留学制度が充実しているから」(同数意見5件)
- 「留学ならば資金補助ある」(同数意見6件)
- 「Improve language or new language」(同数意見5件)
- 「Better education(ranking)」(同数意見7件)
- 「Better research level, techniques or equipment are there」(同数意見4件)
- 「Experience different work-life style and living environment」(同数意見6件)
- 「Be able to learn in different lab operations or research of other countries.」(同数意見10件)
- 「Be able to learn in the different education systems of other countries.」(同数意見4件)
- 「Make friends and connections overseas」(同数意見11件)
- 「Like living, visiting abroad, or enjoying traveling.」(同数意見4件)
- 「To get a better reputation in career」(同数意見3件)

曖昧な理由

- 「今後・将来のため、経験積むため、選択肢を増やすため、視野を広げるため、多角的に物事を見られるようになるため、成長にため、自信をつけたい、刺激を受けるため」(同数意見94件)
- 「日本とは異なる他国の価値観・環境に触れる、いろんな人に出会う、異文化交流」(同数意見92件)
- 「グローバルな人材になりたいから、グローバルに活躍したいから」(同数意見6件)
- 「国際的な人間になりたいから、国際意識が欲しいから、世界に目を向けられるように意識したいから、世界的に活躍したいから」(同数意見9件)
- 「New experiences, opportunities, horizon(視野), more possible options」(同数意見34件)
- 「Understanding different social environments, cultures, and knowledge, and getting a different perspective or global perspectives」(同数意見34件)

理由なし

- 「海外っていいよね、海外に行きたい、海外で過ごしたい、海外を見たい」(同数意見10件)
- 「面白そうだから、(留学、海外に)興味あるから」(同数意見17件)
- 「楽しそうだから」(同数意見5件)
- 「特になし」(同数意見5件)

具体的なきっかけを含んでいる理由(上部と重複有)

- 東工大のパンフレットを見て、海外大学と提携を多く結んでいることを知ったから。
- 立志プロジェクトなどで、自分と立場の違う人の知見が重要であると感じたから。
- 立志プロジェクトの受講中に調べたシドニー工科大学の留学プログラムに興味がわいたから。
- 第二外国語が面白くて履修を続けているから。
- ロシア語を履修しているのでそれを活かせるあるいは鍛えられる場がほしい。
- 独学で中国語を勉強しており、その研さんのため。また、中国の優れた技術・システムを積極的に吸収したいと考えたから。
- 日本に来ている留学生を見てすごいと思ったから。
- 留学フェアで影響を受けたから。
- 留学について考えるオンライン講義で興味を持ったから。
- 高校生の時に、マサチューセッツ州のケンブリッジに行って、MITとハーバード大学の入学説明会と体験授業を受けて、心を奪われた。
- 本学の説明会で学士3年になったら大半の学生が留学すると聞いたから。
- 海外で博士をとりたいから、そのための準備。
- 留学セミナーへの参加。
- パンフレットを見ていいなと思ったから。
- 研究室の先生が共同研究をされている、その道の第一人者の教授のもとで指導を受けたいから。

- 海外に滞在する大学のプログラムがあったから。
- 大学1年生と2年生では語学力を高めることを目的として海外留学をしていたが、今は海外で働くことを視野に入れており、それに役立つような留学プログラムを探している。
- 超短期派遣のプログラムが楽しかったから。
- 高校生の時シンガポール国立大学の敷地内を歩いて、楽しそうだったから。
- 大学に入る前から大学生のうちに留学をしようと思っていた。東工大には機会が沢山あり、機会を逸することはないと思う。
- 東工大の留学プログラムの豊富さを知り、活用して経験値を増やしたいと思ったため。多くの人が留学を経験しているため。
- 10日間の気軽なプログラムだったため。
- 母語以外の言語を教養授業で勉強し始めました。
- 去年1年生のときに留学担当の先生の話を聞いて興味を持ったから。
- 国際開発サークルに入っているので海外の人との交流に興味があるから。
- 系等のガイダンスで留学の勧めを受けて。
- 気軽に留学できる制度が充実してきたから。
- 殻を破るぞ！越境型理工系博士人材育成プログラムに採択され、学外活動を行うため。
- JST SPRING.
- 留学したいと思ってはいたが経済的な部分で難しいと感じていたところ,次世代研究者挑戦的プログラムに採択されたため。
- 東工大立志プロジェクトで興味を持ったから。
- グロ理のオンライン留学。
- 金銭的にかなりサポートを受けられるプログラムを見つけられたので。
- グローバル理工人コースの講義履修。
- 超短期派遣。
- 超スマート社会の卓越教育院に所属しており、世界では様々な専門分野で活躍している人もいて、その人の下で共同研究できるという期待が高まっているから。
- 超短期派遣プログラムに1年次に参加して、刺激を受けたため。
- B2Dでお金が少し出るから。
- グローバル理工人の紹介。
- グローバル理工人育成コースに所属したこと。
- 東工大の留学支援が充実してることを知ったから。
- グローバル理工人コースのセミナーを受講した際にそう思った。
- 研究室に留学生がおり、海外の人とのコミュニケーションに興味を持ったから
- My bachelor's program has a requirement for taking a short time summer camp.
- Because I want to learn more advanced knowledge. Therefore, if I have a chance, I will look to Western countries, especially industrial centers like Germany and the United States. (他の国への留学の"足掛かり")

これらの現状を踏まえ、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. (制度実態)どのような目的で制度を開始し、制度のうちどのような点(方法論/設けている制度のうちのどの制度が大事である等)を重視しているのか、教えていただけないでしょうか。

A1. オンライン留学はコロナ禍が始まってからの制度です。コロナ禍で実施できなくなってしまった留学プログラムを続けるために、オンラインで代行していました。年に 3 回実施し、2023 年度の春も実施予定です。そのため、コロナによって現地での実施が可能になったプログラムでは、オンラインでの留学の実施は行われなくなります。

Q2. (利用実態)昨年度(2021 年度)のオンライン留学の制度別利用者数と利用率を教えていただけないでしょうか。

A2. 昨年度実施の一例としては、グローバル理工人コースの 2 週間ほどのオンライン留学、東工大 AYSEAS があります。語学力向上のため等、目的別での実施はしておりません。オンライン留学の年間参加者は、全体としては、多い時で年間 100 人ほどいました。100 人という数字は、コロナ前の渡航者が 500-600 名だったことを考慮すると、少な

い数だと思います。今年はオンライン留学をほぼ実施しておらず、参加者は 20-30 人程度でした。今年の、渡航した留学者数は、500-600 名ほどで、コロナ前に近い数となっています。

Q3. (制度今後)今後のオンライン留学の拡大、縮小見込みとその背景(理由)を教えていただけないでしょうか?

A3. (縮小)今後の予定は未定ですが、オンラインでやらざるを得なくなっていたプログラムを、コロナ前の渡航可能な状態に戻していっている状況ですので、オンライン留学は事実縮小しており、今後も縮小していくと思います。

提言

以上を踏まえて、コロナ収束後のオンライン留学継続を提言します。

コロナ禍で海外渡航が制限されるようになった 2020 年度以降、現地に足を運んで実施されていた留学の変わりにオンライン留学が実施されていたこと、加えて 2023 年度以降は渡航しての留学へとほぼ完全に戻ることが、留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じてわかりました（2023 年 2 月現在）。

渡航制限中の代替措置として実施されたオンライン留学でしたが、コロナ収束後も継続をお願いします。学生の留学の障壁として、挙げられた 2 つの理由(経済的理由: 49%、海外生活が不安:33%)はオンラインという形での留学であれば解決されると思われます。

提言 4-7 留学中における医療体制バックアップの周知（コロナ禍前後を通じて）

学生の意見

- 新型コロナウイルスの影響が留学を考える際に障壁となっている。（同様意見 24 件）

現状分析

留学の障壁として「コロナ」を理由とする回答を、No.56「留学を考える上で何か障壁はありますか。（複数選択可）」という自由記述による設問へ、多数頂きました。

しかし、以下に記す留学生交流課とのキャンパスミーティングについての記述内容からもわかりますように、学勢調査 2022 実施時（2022 年 6 月末-7 月末）から、留学に対する本学の対応は大きく変わっている可能性があります。本調査結果は、あくまで調査実地時のものであることをご承知おきください。

コロナを理由とする具体的な事柄として、現地での医療体制、帰国拒否に対する不安等が自由記述回答として記されていました。具体的な記述を以下に掲載します。

- コロナなどの医療体制の違い。
- 医療制度が心配。
- コロナによる帰国拒否。
- コロナがいつ治るのかわからない。
- コロナ、コロナへの不安、コロナのリスク(同様意見 17 件)
- ワクチンの接種。

これらの現状を踏まえ、留学生交流課とのキャンパスミーティングを実施し、以下の様な回答をいただきました。

Q1. (制度実態)どのような留学中の医療体制のバックアップを準備していたか、教えていただけないでしょうか。

A1. コロナ前から危機管理会社と連携し保険を包括契約しており、留学者全員が加入するようになっていました。留学中に何かあった時の電話先が記載されており、サポートが受けられる仕組みになっております。コロナ禍での特別なバックアップというのは特にありませんが、他の疾病と同じように対応する流れになっています。実際のコロナ禍での留学において、帰国が遅れてしまった場合の航空便のサポートなどがされていて、それらの対応状況が留学生交流課に連絡が来るようになっております。

Q2. (周知状況)Q1 でお答えいただいたものは、どのような方法で周知を行なっていたかを教えていただけないでしょうか。

A2. あまり積極的に周知してきたわけではありませんでした。コロナ禍での留学中の医療体制バックアップ等を不安に思っている人が多いとは想定していなかったです。

提言

以上を踏まえて、以下の「コロナ禍における留学中の医療体制のバックアップがどれだけしっかりしているのか周知」することを提言します。

留学生交流課とのキャンパスミーティングを通じ、2023 年 2 月現在、既に本学実地の留学において、留学中の学生に対する医療体制のバックアップは多岐に渡り手厚く用意されていることがわかりました。これらのバックアップの存在の周知が進むと、より本学の学生の留学が推進されると考えられます。